



※学-Viva：「Viva」は、「生きる」という動詞から生まれた言葉です。三重の「学び場」が生き生きするイメージで名付けました。

平成28年度 第1回授業改善研修会を実施しました

Part2

小学校国語 【講師：文部科学省初等中等教育局教科調査官 水戸部 修治】

授業実践事例に見る 確かな学力の定着を図る小学校国語科指導のポイント

● 国語科の課題

- △ 場面ごとに登場人物の気持ちを読み取らせる
- △ 要点や要約のスキルを訓練させる
- △ 音読と漢字練習、パンフレットや紙芝居を楽しく作る

T.T.だからこそ
できる授業改善



● 小学校国語科における T.T.指導の工夫

- 子どもが思考・判断し、自己決定できる授業が展開しやすい
- 学習方法（具体的な言語活動）、学習対象（読む本や文章、テーマ等）など、子どもが選べる学習を実現しやすい
- 子どもの良さを、2倍以上の目で見取ることができる

☆☆☆ 効果が大きいケース ☆☆☆

- ・ 「話すこと・聞くこと」の、取材、話すこと、聞くこと、話し合うこと
- ・ 「書くこと」の取材、記述、推敲
- ・ 「読むこと」の目的に応じた読書（選書）、効果的な読み方、自分の考えの形成及び交流

「自分が興味を持ったことを図鑑や事典で調べて、分かったことを調査報告文に書く」学習では・・・

言語活動

初めて知ったことを伝えたいという子どもの思いを生かすことのできる調査報告文にまとめるようにする

目的をもって
活動できるように！



書くこと

子どもが驚いたことや追究したいことであり、その事例を図鑑や事典などから見付けて挙げていく

● 指導のポイント

- ① 付箋などの活用を工夫することで、驚いたことやもっと知りたいことなどをはっきりさせる。
ex 黄色の付箋 → ピンクの付箋
- ② 調べ学習を進めていく方法や書き方の工夫を教科書教材で学んでいくようにする。
→ 調べるための視点や、段落の関係、事例の叙述の仕方や順序性を見付ける
- ③ 調べたことを広げた子ども、深めた子ども、それぞれにふさわしい文例を提示する。
→ 教科書教材を読み、報告文に利用できる
→ 接続詞や表現を見付ける
- ④ 関連図書を準備するとともに、その利用方法を提示し、活用を促す。
→ スムーズに調べられるように、図鑑や事典の利用方法を提示
- ⑤ 目次や見出し・索引を活用し、何度も検索しながら調べ学習を深めていくようにする。

調べ方

- ① 調べることを明確にする。
- ② 検索ワードを決める。
- ③ 図鑑や事典の、目次や索引などから書いてあるページを見付ける。
- ④ 見出しを利用して、調べたいことの見付け方。
- ⑤ 見付からなかったら、本や検索ワードをかえる。それでも見付からなかったら、調べることをかえる。

学力向上 に向けた

具体的な実践事例

【事例18】紀宝町立鶴殿小学校 言語活動の充実 ～思考力・表現力の育成～

全教員で共通理解！

取組の推進！

- 「子どもたち同士が関わり、考えを深め、意見を発表できる授業づくり」
- 「みんなで取り組んでいこう、子どもたちを全員で育てていこう」
- 「特別支援学級の子ども、学習面で支援の必要な子ども、すべての子どもたちの学力を上げていこう」

学力向上に向けた具体的な取組

◆ 全国学力・学習状況調査の分析プロジェクトチームの立ち上げ

教員からの声で3年前から採点・分析を実施！

① 全国学力・学習状況調査終了後

② 8月（結果公表）

低、中、高学年からの代表（4～5名）が各教科のプロジェクトチームに分かれ、自校採点。→ 結果を分析

調査結果を受け、再度プロジェクトチームに分かれ詳細に分析

児童生徒質問紙
H26 → H27
「国語の勉強は好きだ」

5.5 p UP!!

その結果 …

全教員が、日頃の授業改善に気づきを活用！

- 低学年からきちんとした指導が必要
- 他学年との関わりを考えて指導
- 下学年の復習が大切
- 系統立った指導が大切 など

「国語の授業の内容はよく分かる」

24.1 p UP!!

◆ 校長作成の漢字テスト

- ・ 校長作成の全学年の「漢字の読み書きテスト」。
- ・ 「難解語」、「県庁所在地」プリントなどを多数作成し、自主学习に活用。

◆ 独自のワークシート

- ・ 子どもたちの課題に対応した「算数ワークシート」、「ことわざ」や「四字熟語」等、独自のワークシートを作成。

◆ 言語活動の充実に向けた読書活動

- ・ 朝の読書活動 → 落ち着いて1限目の授業に入ることができる。
- ・ 鶴殿図書館との連携 → 毎月、新しい本を届けてもらい、学級文庫で活用。

◆ 校長室横の壁を活用 ◆

「読書は好きだ」

6.3 p UP!!

授業改善に向けての取組と成果

- ◆ 「分かる楽しい授業づくり」 → 子どもたちが主体になる活動を通して、子どもたち一人ひとりの思考力を高め、学力の向上を図る。

「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している」

14.6 p UP!!

▲ 考えが途中で止まる… ▲ 書く力が弱い…

「なぜそうなったのか」を考える → まとめる → 発表
・ 授業の中に、考えさせる場面を設定

- 子どもたちが互いに学び合える土壌づくり
- 子ども同士が関わり合い、考えを深めることのできる授業へ

●●● 紀宝町立鶴殿小学校長より ●●●

学力の向上を目指すためにはまず、子どもたち一人ひとりが安心して学校生活を送り、生き生きと学習することのできる環境が必須である。また教員も元気一杯でやりがいをもって、子どもたち一人ひとりと向き合うことのできる組織体制が必要である。ささやかながら互いに力を合わせ、子どもたちの学力向上のために磨き合い高め合う職場をめざし取り組んできたつもりである。こうした土壌が醸成されてこそ、学力の向上に向け、全体の力が発揮できると信じる。今、少しずつではあるが、チームとして組織が前を向いて動き出した。

これからも常に自らの足元を見つめ、学力向上に向けて、教職員一丸となって取り組んで参りたい。

平成28年度第2回公立小中学校長研修会を開催しました！

～ 8月3日(水) 三重県総合文化センター 中ホール 他 ～

県内の小中学校長、市町等教育委員会事務局職員等あわせて503名が参加しました。はじめに、三重県教育委員会山口教育長より挨拶がありました。

- 伊勢志摩サミットをとおしての学びを一過性のものとせず、子どもたちが自信を持って次の一步を踏み出せるように支援してほしい。
- 他県で起こったことは、自分の学校でも起こりうると思え、教職員の不祥事等、危機管理に取り組んでいただきたい。
- 教員が不安なく指導できるよう、学習指導要領の改訂等に向け、先を見通し、子どもたちや地域の実態をふまえ、準備を進めてほしい。
- 学校長がリーダーシップを発揮して、総勤務時間の縮減に取り組んでほしい。先生を志願する学生が増えるような職場づくり、女性が働きやすい職場づくりに尽力いただきたい。



次に、京都産業大学教授 柴原 弘志氏より「教科化を踏まえた これからの道徳教育・道徳授業」と題し、ご講演いただきました。

～ 講演概要 ～

- 指導要領解説(道徳編)にあるとおり、大切なのは「教師が教える」という意識ではなく、「教師が子どもとともに課題を追究していく」という意識である。
- 道徳性を養うためには、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を目指さねばならない。
- 登場人物の心情の読み取りに偏ることなく道徳科の質的転換を図るためには、学校や児童生徒の実態に応じて、問題解決的な学習などの質の高い多様な指導方法を展開することが必要である。
- 扱う教材が、児童生徒の実態に即しているか、内容とその扱い方が効果的かなど、子どもに「聴く」姿勢を大切にしたい。



午後からは4つの分科会に分かれ、それぞれのテーマにそって実践事例報告や意見交流、グループ討議等を行いました。どの分科会においても、熱心にメモを取りながら話を聞く姿が見られたり、白熱した討議がなされたりしていました。参加者の意見を紹介します。

● 第1分科会「学力向上」

～ 家庭・地域と連携した学力向上の取組 ～

- 良いことも悪いことも、保護者や地域に発信してきたことが、地域からの信頼につながった。
- 校長会として、中学校区内の学校を訪問し、授業を参観し、協議する取組が参考になった。
- 校長には、学校のメッセンジャーとしての役割がある。教職員、子ども、保護者、地域住民に何を伝えるかが重要であると思う。

● 第2分科会「道徳教育」

～ 道徳教育の実践と課題について ～

- ワールドカフェ方式は初めてだったが、話しやすく盛り上がるので、校内研修に取り入れたい。
- 各学年で、全ての内容(19～22項目)を指導することは、法令遵守の観点からも重要である。
- 道徳の授業を充実させることは、あらゆる教育活動を充実させることにつながるので、組織として着実に進めていきたい。



● 第3分科会「体力向上」

～ 体力向上に係る取組について ～

- 今ある行事を体力向上の取組にどのようにリンクさせていくかを考えていきたい。
- 日々の運動(授業、遊びの時間)の積み重ねの大切さを改めて感じた。外遊びを奨励し、体幹を鍛える運動に取り組みたい。
- 子どもたちが楽しんで取り組める運動について検討し、保護者・地域への理解を図り協力を求めていきたい。



● 第4分科会「生徒指導」

～ 学校におけるチーム支援の在り方について ～

- グループワークでは、異校種、他地域の様子がよくわかり、今後の対応の参考になった。
- 具体的な事例を通して、学校におけるチーム支援や関係機関との連携、保護者との信頼関係の構築等の必要性を学ぶことができた。
- 危機的状況が発生することを想定し、役割分担や訓練をするなど、日頃からしっかり準備しておかなければならないと思った。

今後も、引き続き、子どもたちの学力向上等に向けて、地域とともにある学校づくりや校長のリーダーシップによる円滑な学校運営が期待されます。

北勢教育支援事務所より

1 学期、小中学校の要請に応じ 6 4 名の先生方の授業を参観するとともに、小中園合わせて 1 5 回の全体研修会への参加をとおして、学習指導要領の趣旨に基づいた授業改善に向けて、全国学調やみえスタディ・チェックの問題にもふれ、積極的に各教科・領域の指導助言を行ってまいりました。

今後とも、各学校の研修テーマに即した視点での助言、町より要請いただいたテーマや内容についての講義など、学校の実情に即したオーダーメイドの学力向上支援を行ってまいります。

◆ 東員町立東員第二中学校 校内研修会 ～5月18日(水)～

ネットD E 研修「アクティブ・ラーニング」(講師：横浜国立大学 教授 高木展郎先生)を視聴していただいた後、「アクティブ・ラーニングとは何か」と題して講義を行いました。先生方に、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善に取り組む際、大切なことは何かを考えていただきました。

研修会后、「これまでの授業を振り返って、生徒が主体的に授業に取り組む必要性を改めて感じました」などの感想をいただきました。



◆ 朝日町立朝日中学校 校内研修会 ～6月8日(水)～

朝日町立朝日中学校は、今年度「『個の力』と『集団の力』を高める授業づくりと仲間づくり」を研究主題として、校内研修に取り組んでいます。



2 年生数学「連立方程式」の提案授業後の検討会では、拡大した指導案を囲んで本時の授業の流れにそって良かった点、悪かった点について意見交換が行われました。「学習形態の使い分けは適切であったか」、「『めあて』は子どもたちの多様な考えを出すことができる広がりのあるものを設定すべき」といった忌憚のない意見が出され、学年や教科の枠を越えて真摯に提案授業について話し合っている先生方の姿が印象的でした。

先輩

～ 学力向上
アドバイザー ～
からの
メッセージ

ティーム・ティーチングの取組から

A 小学校は今年度「『わかる授業』促進事業」を受け、算数科におけるティーム・ティーチング(以下、「TT」)の実践的な研究に取り組んでいます。

年度当初、全教員で本事業の趣旨やねらいを共通理解するとともに、校長のリーダーシップのもと教務主任、研究主任が中心となって「算数科における具体的なTTの授業形態」について研修会を行いました。「T1、T2の役割をホワイトボードで連絡しあう」「座席表を活用して情報交換をする」など、授業の進め方についても協議されました。

実際に授業を進めていく中で、単元ごとに授業の進め方や指導方法について振り返り、T1、T2 それぞれの役割を再確認したり明確にしたりして、次の単元での授業改善に活かしていました。

また、この実践を子どもたちはどのように受け止めているのかを把握するため、1学期末に4、5、6年生を対象にアンケートが実施されました。夏季休業中にアンケートの結果を分析し、2学期からの授業改善へとつなげます。

この実践と並行して、全教員で「全国学力・学習状況調査」の問題に取り組み自校採点を行うとともに、「みえスタディ・チェック」についても結果を分析し、それらをもとに具体的な数値目標を再設定しました。

A 小学校に限らず、それぞれの学校が自校の実態をふまえ、推進校としての研究を進めるとともに、子どもたちの学力向上に向けた実践を行っています。

学校全体で取り組み、日々の授業の充実・改善を図ることが子どもたちの学力向上につながります。そのためにも、現在進められている研究の成果を県内の先生方にお伝えできるよう、推進校の先生方とともに学びを深めていきたいと思ひます。





みえの学力向上県民運動

セカンドステージ（平成 28 年度～31 年度）を展開します！

みえの学力向上県民運動（平成 24 年度～27 年度）の取組の総括では、学校での組織的な取組が進んできた一方、家庭における生活習慣・学習習慣・読書習慣には、なお課題があることが明らかになりました。

そこでこれまでの基本理念、取組の視点を基本的に引き継ぎ、**みえの学力向上県民運動セカンドステージ（平成 28 年度～31 年度）**を展開します。

「学校では授業改善等の取組を深め、家庭・地域では生活習慣・学習習慣・読書習慣の確立等の取組を広げる。」「家庭の状況により対応が難しい問題は、地域による学習支援や居場所づくりなどにより、**地域で支える。**」を基本として取り組みます。

全体図

みえの学力向上県民運動セカンドステージ

～ 子どもの問題は、大人の問題 ～

《ねらい》

「毎日が未来への分岐点」という思いのもと、県民力を結集し、子どもたちの希望と未来を支える学力を育む

《子どもたちに育みたい力》

社会を生き抜いていく力



生きる喜びを感じながら、主体的に学び、自信と意欲、高い志を持って夢を実現させていく力（自立する力）

グローバルな視点を持ちながら、他者との関わりの中で共に支え合い、新しい社会を創っていく力（共生する力）

自尊感情 ・ 自己肯定感

多くの大人が子どもたちに関わり、励ましながら、子どもたちの学びと育ちを支える

取組の視点

1. 「主体的・協動的に学び行動する意欲」を育てます

- 「個別の知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性、学びに向かう力」の総合的な育成
- 粘り強く取り組み、次につなげたり、他者と協働し、自らの考えを広げ深めたりする学びの過程
- キャリア教育の視点からも、日々の学習と実生活や自分の将来との関係に意義を見だし、見通しと意欲を持つ学び

等

2. 「学びと育ちの環境づくり」を進めます

- さまざまな学びの場をとおして、「できるようになった！」という達成感の積み重ね
- 生活習慣・学習習慣の確立（自己管理能力の育成 等）
- 家庭の状況により、対応が難しい問題については、地域で支える体制づくり

等



3. 「読書をとおした学び」を進めます

- 生涯にわたって主体的に学び続ける力の育成
- 豊かな心や規範意識の育成
- 家庭読書（家読）の促進、生涯にわたる読書習慣の確立（大人自身が率先して読書し、読んだ本について語り合う 等）

等



学校

授業力の向上

～ 校長会等と一層の連携 ～

- 3点セット（全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェック、ワークシート）を年間を通じて計画的に活用した授業改善、校内外研修等の組織的な取組の徹底
- 効果的な授業スタイル、ノート指導、宿題の出し方
- 少人数指導の検証・充実



教育支援事務所

深まり

等

生活習慣・読書習慣の確立
地域とともにある学校づくりの促進

～PTA 等と一層の連携～

- 生活習慣・読書習慣の確立
 - ・ 早寝、早起き、朝ごはん
 - ・ 外遊びや運動
 - ・ 学校の授業以外での読書時間
 - ・ スマホ、ネット等の適切な使用
 - 幼児教育の充実
 - ・ 園訪問や保幼小接続モデルカリキュラムの作成
 - 地域とともにある学校づくりの促進
 - ・ 地域の教育力を高める人材等のネットワークの構築
 - ・ 三重県型コミュニティ・スクール、学校支援地域本部（地域未来塾を含む）等の取組の拡充
- ※ 家庭教育の充実に向けた応援戦略の確立
 ※ 優良 PTA や「早寝早起き朝ごはん」運動に係る国の表彰等や家庭教育支援チーム等の活用も検討



家庭・地域

広がり

等

全国学力・学習状況調査において全国平均を上回った教科数
教科に関する調査における無解答の状況

子どもたちの自尊感情の状況

将来の夢や目標を持っている
子どもたちの割合

- 授業内容を理解している子どもたちの割合
- 授業で主体的・協働的に学習に取り組んでいると感じる子どもたちの割合
- 「めあての提示」、「振り返る活動」の実施状況



- 毎日、規則正しく寝起きしている子どもたちの割合
- 朝食を毎日食べている子どもたちの割合
- 子どもたちの家庭学習の状況
- 生活習慣・読書習慣チェックシートの家庭での取組後、生活指導等に活用している小中学校の割合
- 地域等の人材を招へいした授業等を行っている学校の割合
- 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある子どもたちの割合
- コミュニティ・スクール等に取り組んでいる市町の割合
- 地域の教育関係者のネットワークへの参画者数(累計)
- 生活困窮世帯またはひとり親家庭に対する学習支援を利用できる市町数
- 放課後を利用した補充的な学習サポートを週 2 回以上実施した学校の割合
- 地域の行事に参加している子どもたちの割合

- 授業時間以外に読書をする子どもたちの割合
- 図書館資料を計画的に活用した授業の実施割合



《 基本理念 》

激動の時代にあって、次世代を担う子どもたちには、生きる喜びを感じながら、主体的に学び、自信と意欲、高い志を持って夢を実現させていく力（自立する力）とともに、グローバルな視点を持ちながら、他者との関わりの中で共に支え合い、新しい社会を創っていく力（共生する力）、すなわち、社会を生き抜いていく力が求められています。

子どもたちは、一人ひとりがかげがえのない大切な存在であり、将来、地域で輝き、世界で活躍する姿は、私たちの希望であり未来です。子どもたちの無限の可能性を最大限引き出すとともに、強みを伸ばし支えていくことは、子どもたちに関わる全ての大人の役割と責任です。子どもたちは、大人を見ており、「子どもの問題は、大人の問題」です。

教育は子どもたちの心に灯をともすことであり、大人が子どもたちを信じ、寄り添い、情熱を持って心を通わせる中で、希望の灯をともし、やる気にスイッチを入れることが大切です。また、子どもたちは、さまざまな場での学びをとおして成長していきますが、教育格差が原因となって貧困の連鎖が生まれ、子どもたちの将来が閉ざされることがないように、子どもたちを多面的にサポートする人びとのつながり（絆）が、これまで以上に求められています。

そこで三重県では、子どもたちの希望と未来を支える学力を育んでいくため、教育関係者のみならず、全ての県民が教育の当事者としての自覚を持ち、「毎日が未来への分岐点」という思いのもと、それぞれの役割を果たし、子どもたちと向き合っていきます。平成 28 年度からの 4 年間は、みえの学力向上県民運動セカンドステージとして、学校では授業改善等の取組を深め、家庭・地域では生活習慣・学習習慣・読書習慣の確立等の取組を広げ、家庭の状況により、対応が難しい問題については、地域による学習支援や居場所づくりなどにより、地域で支えるという方向性を基本としながら、県民力を結集し、全力で取り組みます。

〈 取組の視点 〉

みえの学力向上県民運動は、次の 3 点を取組の視点として進めます。

1. 「主体的・協働的に学び行動する意欲」を育てます

子どもたちの学力の育成にあたっては、学習指導要領等を踏まえ、「何を知っている・できるか」（個別の知識・技能）はもとより、「それをどう使うか」（思考力・判断力・表現力）、さらには「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」（主体性・多様性・協働性、学びに向かう力）といった視点を重視し、総合的に捉えていく必要があります。

また、学びの過程では、さまざまな情報を関連づけ、見通しを持って粘り強く取り組むとともに、やりっ放しにせず振り返って次につなげたり、課題の発見と解決に向けて、他者と協働しながら試行錯誤を重ね、自らの考えを広げ深めたりするなどといったプロセスが大切です。

そのため、そういった「今、求められている力」を意識し、また、キャリア教育の視点からも、子どもたちが発達段階に応じ、日々の学習と実生活や自分の将来との関係に意義を見だし、見通しと意欲を持って学ぶことができるよう、授業改善等の取組を進めます。

2. 「学びと育ちの環境づくり」を進めます

子どもたちが、学校・家庭・地域でのさまざまな学びの場をとおして、「できるようになった！」という達成感を積み重ね、自尊感情・自己肯定感を高めることができるよう、多くの大人が子どもたちに関わり、励ましなが、子どもたちの学びと育ちを支えることが大切です。

そのため、「教育の原点」である家庭教育を応援し、スマホの使用等について家庭で話し合っルールを決めて守ったり、勉強時間を確保したりするなどの自己管理能力を育て、生活習慣・学習習慣を確立します。また、家庭の状況により、対応が難しい問題については、地域による学習支援や居場所づくりなど、地域の多様な資源を最大限生かしなが、地域で支える体制づくりを進めます。

3. 「読書をとおした学び」を進めます

読書は、知的活動（論理や思考）やコミュニケーション、感性・情緒の基盤をなす言語に関する能力を育む上で欠くことのできないものです。知識基盤社会にあつて、情報の収集・選択・活用という生涯にわたって主体的に学び続ける力を身につけるうえで重要性を増しているとともに、論理的に考え、相手の言葉を受け止め、伝え合う言葉を持つことは、豊かな心や規範意識の育成にも影響しています。

そのため、図書館を活用した授業づくりや朝の読書（朝読）はもとより、大人自身が率先して読書を行い、読んだ本について語り合うことなどをとおして家庭読書（家読）を促進し、子どもたちの生涯にわたる読書習慣を確立します。